

---

# 『知らなかった感情』

愛弥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『知らなかつた感情』

### 【著者名】

IZUMI

N4329

### 【作者名】 愛 弥

### 【あらすじ】

今まであいつに感じていた違和感は、あいつが好きだとこいつ気持  
ち。

(前書き)

忍足が今まで、跡部に対する感じたことのない違和感は跡部が好きだからなんだと気付く話です。

初めて  
気付いたこと。

『知らなかつた感情』

肌を突き刺すような冷たい風が吹き始めた11月の屋上。

俺は一人、何もすることなく柵に背を預け、ただ黄昏れていた。

今は調度午後の授業が始まっている時間だ。

本来なら、俺も今頃机に座り、つまらない授業を受けていた筈。

だけど、何だか今日は授業を受ける気がしなかつた。

まあ、何時もないのだけれど。

何と無く気怠くて、そのままいつと連れて廊上へやつてきた。

だけれど、この季節の廊上は寒く、保健室でぼんばよかつたと後悔している。

「……ハア」

思わず零れた溜息。

この寒さでも、まだ白くならないみたいだ。

最近、よく溜息が出る。

原因は、分かっているのだけれど、何故それが原因なのかは分からぬ。

最近溜息が出る原因とこのせ、あこのの」と。

最近やけにあいつの事を考えてしまつた。

そして、決まって畠んで溜息が漏れる。

どうしてあいつの事を考えてしまったのかとか、どうして畠んでしまうのかとか、全く分からない。

ほり、今だつて無意識にあいつのことを考へてゐる。

俺は、どうしてしまつたんだろ？

同様の、あいつのことを考えてこるなんて。

ふう、とまた溜息を吐き捨てるべ、5限目の授業が終わったことを喜ぶのチャイムの音が、鳴り響いた。

頭の中に向うのまにか住み着いてしまつたあいつ。

追ふ出でつとじても出て行ってくれそれそこなつ。

一体何故、あいつの事ばかり考へてしまつてこるのであらう。

「なんだ、お前も！」こいたのか

「え……」

突然かけられた声に反射して顔を上げると、俺の頭の中に住み着いているあいつが俺を見下していた。

急にドク、ドクと騒ぎ始める心臓。

鼓動に驚き思わず、言葉を失つた。

「なんだよ、そんなに驚いた顔して」

ふ、と少し馬鹿にしたような笑みを浮かべたあいつは、俺の横に立つと、柵に腕を組んで、空を見上げていた。

そんな、あいつの綺麗な横顔を見ただけでも、俺の体内では早い鼓動が響く。

あの、空の様に蒼い瞳に、自分を写してほしい。

「なつ……」

「……あ？」

突然生まれた欲に、驚いて声を出してしまった。

自分を見てほしい、だなんて。

そんなの、恋をしてこんな女が西野加奈なの!。

なんで俺……

「おーい」

「あ……」

気が付くと、あいつの顔が驚く程俺に近付いていた。

そんなことに、俺の心臓は早鐘を打つ。

「なにほー、としてんだよ。もつすべチャイム鳴るわ」

「あ…、ああ。そやな」

「じゃあ俺は先に行くからな」

そう言つて、あいつは屋上を去つていった。

「……」

ドク、ドクと脈を打つ鼓動。

気が付いてしまったあこつへの感情は、よ  
断へ信じられないなかつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4329j/>

---

『知らなかった感情』

2010年10月9日02時16分発行